

平成28年度 南丹広域振興局 運営目標達成状況一覧

【小項目の達成区分】
 「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)
 「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)
 「△」…未達成(達成率90%未満)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1 「森の京都」京都丹波で大交流を巻き起こします。			
①	第40回全国育樹祭式典(南丹市日吉町)、国際森林シンポジウム(亀岡市)、全国緑のこどもサミット交流集会(京都丹波町)の開催に合わせ、地域・企業の協働による森林活動や森へのリレーメッセージなどにより、モデルフォレスト運動参加者や地域の小中学生等に、府民の京都丹波の森林や林業に対する理解を促進する取り組みを行います。 ・記念植樹・育樹や地域の小中学生を対象とした森の京都冠プレイベントを企画するなど、関係市町、団体等との連携・協働による普及啓発活動を展開 <記念植樹等 3回(延べ60人参加)(27年度実績 3回(延べ134人参加))> <森林観察会等 1回(20人参加)(27年度実績 2回(延べ119人参加))> <林道ウォーキング 1回(27年度実績 1回)> <新緑祭(STIHLの森京都)などのプレイベント 2回(28年度新規)>	◎	・記念植樹 3回(園部町穴人、京丹波町本庄、南丹市美山町島、延べ120人)(100%、200%) ・森林観察会(園部町穴人) 1回(65人)(325%) ・10/10 丹波広域基幹林道ウォーキング実施(100%) ・プレイベント 3回(新緑祭、森林教室、プランター作成指導)(150%)
②	森の京都博と一体となり、森の恵みを活かした食や文化、スポーツなどを活用し、内外から人を呼び込み、交流と賑わいづくりを進めます。 ・市町、NPO、地元団体などと協働して、音楽・食・芸術・体験などをテーマに「京都丹波・森の京都フェスティバル」(10月16日ガレリアかめおか)を開催 <来場者数 20,000人(27年度実績 15,000人)> ・市町、NPO、地元団体等と連携し、「味夢の里」など道の駅等を核に、木の体験型イベントを行うなど、「森の京都」、「京都丹波高原国定公園」を内外に発信する「森の京都DAY」を開催 <イベント来場者数 10,000人(28年度新規)> <道の駅利用者数 400万人[レジカウンター](27年度実績 367万人)> ・木工、スポーツグッズ、食の販売など「森の京都商店街」を地元商工会等と協働開催(京都丹波トライアスロン大会賑わい創出)(8月27日、28日大堰川緑地公園) <大会参加者・来場者数 10,000人(28年度新規)> ・京都トレーニングセンターの開設にあわせ、親子が楽しめる「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」を開催 <来場者数 1,000人(28年度新規)> ・「京都丹波高原国定公園」において、市町、NPO、地元団体と協働し、ファミリー層や外国人をターゲットにウォーキングイベント(11月3日美山)を開催 <来場者数 500人(28年度新規)>	○	・10月16日ガレリアかめおかにて、京都丹波・森の京都フェスティバルを開催(来場者数 18,000人)(90%) ・森の京都DAY(11/13開催)及び森の京都春の祭典(3/20開催)(来場者数 24,000人)(240%) ・道の駅利用者数 365万人(91%) ・森の商店街スタンプラリー8/28開催(トライアスロン大会来場者10,000人)(100%) ・京都丹波キッズスポーツふれあい広場 7/2開催(参加者3,000人)(300%) ・11/3美山かやぶきの里ワンデーマーチ(来場者数664人)(133%) ※地域力再生交付金で支援
③	森の京都博に合わせ、匠シンポジウムや京都丹波ならではの産業施設を巡る観光体験ツアー等を開催することにより、誘客を促進し、京都丹波地域の森の恵みをいかした産業観光を確立します。 ・匠、職人のネットワーク化 データベースの作成 <情報交換・交流の場の提供 1回(28年度新規)> ・匠シンポジウム <匠の技・文化を発信するシンポジウム開催 1回(28年度新規)> ・匠の技展 <商品展示、実演等を行う展示会の開催 1回(28年度新規)> ・匠ビレッジツアー 刀鍛冶や茅葺織人など、匠の工房を訪問する体験型ツアーの造成、旅行事業者への商品化提案 <モニターツアーの実施 3回(28年度新規)> ・森の京都産業観光体験ツアー 産業観光型企業のデータベース化、京都丹波の匠の工房を訪問する体験型ツアーの造成、旅行事業者への商品化提案 <モニターツアーの開催：2回(28年度新規)>	◎	・匠、職人のデータベース作成済 ・匠職人の情報交換・交流の場の提供1回(11月19日(土)、匠ビレッジフェスティバルで開催) ・11月19日(土)、森の京都匠ビレッジフェスティバルとして、シンポジウム及び匠技展を開催(延約200人参加) ・匠ビレッジモニターツアー (3回、メディア・旅行会社等33人参加) 京すだれ、天鷲絨工場など、匠職人の工房をめぐる体験型の観光ツアーを開催 ・産業観光モニターツアー (2回、メディア・旅行会社等22人参加) 保津川下り造船所、湯の花温泉バックヤードなど京都丹波ならではの産業施設をめぐる体験型の観光ツアーを開催
達成手段(数値目標)	④	◎	森の京都博に合わせ、京都新光悦村の誘客・誘致を図ります。 <新光悦村の工房等と連携し、製品等の展示会を開催 1回> 企業訪問及び産業観光ツアーなどの各種イベント等において、新光悦村のPRを実施

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑤	<p>京都丹波・写ガール隊により、「森の京都」を重点的なテーマに管内の魅力をフェイスブック等を通じ、国内外へタイムリーな情報発信 <森の京都の発信 500件(28年度新規)> <広報大使として活躍 10件(28年度新規)></p> <p>「森の京都」の普及促進を進めます。 ・「森の京都」の「ロゴマーク」の普及、誘客に向けたサイン整備 <ロゴマーク等の活用 50活用(27年度実績 37活用)> ・管内8つの道の駅で、大型ポスターの掲出、のぼり旗の設置、ガイドブックの重点配付、イメージソングの放送、地元産農産物への森の京都シールの貼り付け等の実施 ・府と協定しているマンガ学科を有する大学や高校、京都アニメーション等との連携により、話題性のあるコンテンツづくりに取り組み、森の京都の魅力を発信</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 森の京都の発信(FB投稿、CATV放送)450件(90%) ○ 広報大使 13件(130%) ○ 森の京都ロゴマーク等の活用 128件(256%) ○ 道の駅において大型ポスターの掲出、のぼり旗の設置、ガイドブックの重点配付実施 ○ 京都美術工芸大学と連携し、森の京都をテーマにした職人ポスター(6作品)を製作し、第10回京都丹波美術工芸教育展で展示。
⑥	<p>京都府立大学、森林技術センター等の研究機関と連携・開発した新作業システムにより、地域産木材の安定供給を図るための「森林経営計画」拡大を支援すること、丹波広域基幹林道の活用すること、及び木質バイオマス施設の設定・運営に協力することなど、成長型林業の先進地づくりを進めると共に、地域循環型の木材利用を促進します。 <管内において戦後植林された民有林の搬出を具体化するための「森林経営計画」を管内全域の30%まで策定(27年度実績27%)> <産学公で開発した新森林管理システムの普及啓発研修会等 2回(28年度新規)></p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林経営計画カバー率 29.8% ○ 9/5、2/21に京丹波町で2回実施(100%) 京丹波町有林伐採地で収支計算を行なった。森林組合等が今後本システムを利用するには、更なる実証が必要である。
⑦	<p>森林・林業・木材産業の機関や団体等の連携の基、新たな森林ビジネスの創出に向けた取組を進め、森林産業と地域経済の活性化を図ります。 ・地域製材加工製品、その他幅広い森林・木材利用等の開発・需要促進に向けた取組 <地域産材PRのための山林や市場、製材施設等の見学会 2回(27年度実績 2回)> <大型木造建築施設の見学等 1回(28年度新規)> <府内産木材の地域内での製材等加工量の増加 17%増 21,000m3(27年度実績 17,900m3見込み)> <管内の森林業関係者が一同に会する「森の京都 京都丹波スクール」の開催 1回(27年度実績 1回)></p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 10/21 林業関係者を対象に八木木材市場の見学会を実施、12/10には山の見学会を実施。(100%) ○ 7/25 市町森林・林業担当者の府内最大の府内産木造施設である、京都トレーニングセンターの見学実施(100%) ○ 府内産木材の地域内での製材等加工量 12月 現在10,000m³ 製材工場への乾燥施設の導入支援や素材生産用機械の導入補助を行っているところ。 ○ 12/10 京丹波スクール(府内産木材利用施設など、木材需要拡大のための視察と講演会)を開催(100%)
⑧	<p>「森の京都」戦略拠点への交通アクセスの強化を進めます。 京都広河原美山線(内久保バイパス):工事の完成(㉒~㉔) 綾部宮島線(脇谷バイパス):道路・橋梁詳細設計、用地調査の実施(㉖~㉘) 園部平屋線(殿田工区):工事の推進(河川側9月末完成)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 京都広河原美山線:バイパス部完成(10月5日供用開始) ◎ 綾部宮島線:詳細設計の推進、用地調査着手 ◎ 園部平屋線:工事の推進、河川側幅完成(9月28日供用開始)
⑨	<p>「森の京都」戦略拠点の利便性の向上を図ります。 道の駅「瑞穂の里 さらびき」:トイレ改修の実施 <拠点案内サインの設置 2基 (27年度実績 6基)></p>		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 道の駅「瑞穂の里 さらびき」:トイレ供用(2月末時点)3月末予定 ◎ 拠点案内サインの設置:2基完了(計画全箇所完了)(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
2 都市農村交流を進め、内外の交流を生み出します。			
達成手段 (数値目標)	① 森の京都博(国定公園指定、全国育樹祭等)を契機として、京都市内から1時間以内で本格的な農業農村体験が出来る強みを活かし、「一般社団法人 京都丹波・食と森の交流協議会」を中心に、小中学生の教育体験旅行など着地型・体験型旅行の受入体制整備・拡大を図り、森の京都振興会社(仮称)DMOによる観光地域づくりにつなげます。 <教育体験旅行の受入 60団体 3,000人[うち農家宿泊 3市町700人] (27年度実績 47団体 2,501人[うち農家滞在 3市町556人])> <H29から新たに受入が始まる修学旅行への対応など、受入体制の強化> ・宿泊を受け入れられる農家の拡大 累計170戸(27年度実績 143戸) ・(一社)食森協議会と連携した学校や旅行代理店等への誘致活動の展開:20件 <インバウンドの教育体験旅行拡大に向けた「森の京都インバウンド教育体験旅行受入マニュアル」の策定> <農業農村体験とセットにした着地型宿泊プランを提供する公的宿泊施設や温泉旅館、農家民宿等と施設数 3施設(28年度新規)> > <アグリスポーツの開催 3回(27年度実績 5回)> 【再掲】 <内水面漁業の役割など理解を深め、水辺や川魚など森と水の恵みに親しむ機会の提供 内水面漁協と連携した釣り教室等の開催 2回(27年度実績 1回)> <農林漁家民宿の開業支援 5軒(累計:23軒)(27年度実績 6軒(累計18軒))>	△ △	<ul style="list-style-type: none"> ・教育体験旅行の受入 53団体 3,259人見込[うち農家宿泊 3市町786人] (88%、109%)[100%、112%] 【未達成の要因・理由】 受入人数の拡大に注力し、実質的な目標である受入人数は目標を上回る結果となった。 ・H29から新たに受入が始まる修学旅行への対応など、受入体制の強化 宿泊を受け入れられる農家の拡大 累計173戸(102%) 旅行代理店等への誘致活動 5回(40%) 【未達成の要因・理由】 旅行代理店等へは「森の京都教育旅行便り」の月1回の定期的な配信により、森の京都における教育旅行の魅力について情報提供するとともに、ファムトリップ(誘客促進のため、旅行会社を招へいた現地視察ツアー)を実施するなど、別の形で効果的・継続的な誘致活動を実施したため。 ・マニュアル策定見込 ・農業農村体験とセットにした宿泊提供 2施設(67%) 【未達成の要因・理由】 農家民宿等に対し、体験プランの導入を提案したが、旅行商品としての販売までには至らなかった。 ・アグリスポーツ 2回(67%) 【未達成の要因・理由】 地元のイベントと同時開催を予定していたが、雨天によりイベントが中止され、再設定の調整も整わなかったため。 ・内水面漁協と連携した釣り教室等の開催について検討、協議実施 【未達成の要因・理由】 関係団体との調整が整わなかったため ・農林漁家民宿開業支援7軒(合同調査実施3軒、事前相談4軒)(140%) ※合同調査＝関係行政機関(建築、保健所、消防等)が合同(ワンストップ)実施

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
3 京都丹波まるごとスタジアム化によるスポーツ観光を推進します。			
達成手段 (数値目標)	<p>① 体育協会、市町をはじめとした団体が構成する「京都丹波・まるごとスタジアム化推進協議会」を軸にスポーツ観光を推進し、更なる誘客と地域の活性化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都トレーニングセンターの開設にあわせ、親子が楽しめる「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」を開催【再掲】 <来場者数 1,000人(28年度新規)> ・京都トレーニングセンターにおいて、地元高校生等を対象にトレーニング体験を含めた施設見学会を開催 ・「京都丹波高原国定公園」において、市町、NPO、地元団体と協働し、ファミリー層や外国人をターゲットにウォーキングイベント(11月3日美山)を開催【再掲】 <来場者数 500人(28年度新規)> ・市町、地元団体と連携し、スポーツと田舎暮らしを体験する男女の出逢いイベント、京都丹波へ『でいと・し・といで』を開催 <参加者数 50人(28年度新規)> ・木工、スポーツグッズ、食の販売など「森の京都商店街」を地元商工会等と協働開催(京都丹波トライアスロン大会賑わい創出)(8月27日、28日大堰川緑地公園)【再掲】 <参加者・来場者数 10,000人(28年度新規)> ・スポーツと観光を組み合わせた体験プログラム開発 <スポーツ観光の企画プログラム開発数 8件(27年度実績 6件)> ・アグリスポーツの開催 <3回(27年度実績 5回)> ・美山サイクリングイベント等での観光情報の発信 <2回(27年度実績 3回)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波キッズスポーツふれあい広場 7/2開催(参加者3,000人)(300%) ・7/2トレーニングセンター内覧会開催 ・11/3美山かやぶきの里ワンデーマーチ(来場者数664人)(133%) ※地域力再生交付金で支援 ・3/20『森の京都 春の祭典』にて、豊かな自然の中でスポーツを楽しむ、「森の京都謎解きウォークラリー」「森のキッズジャングル」(移住相談会と同時開催)を開催し、地域内外のファミリー層や若者層にスポーツを通じた地域の魅力アピールを図った。 (参加者数1,000人・春の祭典全体20,000人)(2000%) ・男女の出逢いイベント「でいと・し・といで」未達成 【未達成の要因・理由】 全国育樹祭の会場となったスチールの森を主会場に3月4日又は3月11日に開催する方向で進めていたが、急遽3月20日に「森の京都春の祭典」の開催が決まったことから実施が困難となったため。 ・森の商店街スタンプラリー8/28開催(トライアスロン大会来場者10,000人)(100%) ・スポーツ観光体験プログラム開発8件(100%) ・アグリスポーツ 2回(67%) 【未達成の要因・理由】 地元のイベントと同時開催を予定していたが、雨天によりイベントが中止され、再設定の調整も整わなかったため。 ・5月29日美山サイクルロードレース、7月31日美山グリーンツアーで観光情報を発信 2回(100%)
	<p>② 「京都丹波・まるごとスタジアム化推進協議会」を中心に、全国規模の大会を誘致し、地域の魅力を発信し、スポーツによる観光振興を進めます。(ビーチバレー、ダムフィッシング、BMX大会等)</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波広域基幹林道にてトレイルランニング開催に向け、トレイルランニング協会、市町、教育委員会、体育協会等関係者会議を2月2日に開催。ブレ大会を6月以降、本大会を11月開催する方向で概ね合意し、「京都丹波・まるごとスタジアム化推進協議会」を中心に関係団体と進めているところ。
	<p>③ 亀岡市等と連携し、スタジアム周辺の賑わい創出について検討を進めます。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ホストタウンの誘致や局イベントへの参画など、検討を進めている。
	<p>④ 専用球技場へのアクセス道路を整備します。 国道423号(法貴バイパス):橋梁設計、用地調査の実施(㉔~㉚) 郷ノ口余部線(宇津根橋):用地買収、工事の推進(㉔~㉚) 枚方亀岡線(歌留多~千歳工区):調査・設計の実施 茨木亀岡線(小泉工区):調査の実施</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・国道423号:橋梁設計実施、用地立会全線完了 ・郷ノ口余部線:用地買収実施、橋梁下部工事(P1橋脚完了、P2,P4橋脚実施) ・枚方亀岡線:用地調査・設計実施 ・茨木亀岡線(小泉工区):用地調査実施

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
4 交流人口の獲得、及び訪日客の誘客促進により入込客増、消費額増を図ります。			
達成手段 (数値目標)	<p>オール京都丹波による国内外からのお客様の受入体制の整備を進めるとともに、メディア、旅行代理店等を対象としたファミトリップなど国内外誘客おもてなし事業を展開することにより、観光入込客数及び観光消費額の増加を目指します。</p> <p><京都丹波地域への観光入込客数 700万人(27年実績 717万人)> <観光客一人当たりの消費額 2,300円(27年実績 1,650円)> <台湾を始め世界からのお客様をお迎えするため、異文化コミュニケーション等のホスピタリティ向上スキルアップ研修を開催 7回(28年度新規)></p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内向けおもてなし観光ファミトリップの実施 <ul style="list-style-type: none"> <新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 3コース(28年度新規)> <中部・東海、首都圏のメディア・旅行会社等へのファミトリップ実施 1回(28年度新規)> 国外向けおもてなし観光ファミトリップの実施 <ul style="list-style-type: none"> <新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 3コース(28年度新規)> <台湾・タイ等の旅行会社等へのファミトリップ実施 1回(28年度新規)> 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数、一人当たりの消費額は年度末に集計し、7月頃に公表予定 ホスピタリティ向上スキルアップセミナー 7回実施済(100%) 新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 <ul style="list-style-type: none"> 国内向け 3コース済、国外向け 3コース済(100%、100%) 国内向けおもてなし観光ファミトリップ <ul style="list-style-type: none"> 保津川下り造船所、京すだれ、天鷲絨工場など、京都丹波ならではの産業施設や、匠職人の工房をめぐる体験型の観光ツアーを開催 (※参加メディア・旅行会社等、5本合計55名参加)(500%) 国外向けおもてなし観光ファミトリップ <ul style="list-style-type: none"> 28年9月トラベルマートにて25社と商談実施 28年12月首都圏中京圏のインバウンドランドオペレーターのファミトリップを実施。15名参加(100%)
	<p>②</p> <p>若者目線での域内観光資源の発掘と若年層の郷土愛の醸成を図るため、京都丹波観光プランコンテストを開催します。</p> <p><京都丹波観光プランコンテストの開催 年1回(27年度実績 1回)> <旅行商品化に向けたモニターツアー等の実施 年1回(27年度実績 1回)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 10月29日(土)、京都丹波観光プランコンテスト(100%) <ul style="list-style-type: none"> 本選開催 4チーム参加 旅行商品化に向けたモニターツアー <ul style="list-style-type: none"> 29年2月21日(火)(100%) 旅行会社・タクシー会社等 6名参加
	<p>③</p> <p>京都縦貫自動車道全線開通による京都舞鶴港からの誘客を促進します。</p> <p><旅行会社への商品造成の提案：2回以上(27年度実績 3回)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等への商品造成の提案を実施 3回(150%)
	<p>④</p> <p>京都丹波の食の魅力の情報発信を行います。</p> <p><京都丹波地域の食の魅力をSNS、Web等で情報発信 3回(27年度実績 3回)></p> <ul style="list-style-type: none"> 森の京都博関連イベント等において、畜産・食肉事業者等の参画により、素材を生かしたレシピの紹介や試食販売などを通じて、「京都丹波」ブランドを積極的にPR・発信 ジビエ料理を提供するレストラン等との連携により、「森の京都スペシャルセット(仮称)」等新メニューの開発を支援 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 京都丹波地域の食の魅力をSNS、Web等で情報発信 3回(100%) 亀岡市アグリフェスタ(10月10日)、京丹波「食の祭典」における畜産農家・食肉事業者の参加を誘導し、畜産物を積極的にPR(肉用牛3戸、1事業者、養豚3戸、1事業者、採卵鶏1戸、肉用鶏1事業者) 美山町等のレストランで、ジビエを使った「森の京都スペシャルメニュー」の提供(メニュー開発4件)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
5 あらゆる危機事象への迅速・的確な対策を講じ、安心・安全で住みやすいまちにします。			
達成手段 (数値目標)	① あらゆる危機事象への迅速かつ的確な対応を図ります。 ・原子力防災に係る情報の共有化を図るとともに、環境放射線調査車やモニタリングポストにより放射線監視体制を確保します。 ・災害発生時に迅速に広域防災活動拠点を開設するため、本部展開訓練を実施します。 ・京都府水害対応訓練等において、タブレット端末やweb会議システムを活用し、情報交換を実施します。 ・南丹市において、地震や水害、原子力災害を想定した京都府総合防災訓練を、管内市町や関係機関と連携して実施することにより、様々な災害への対応力を強化します。 ・違法開発案件等を未然防止・拡大防止するため、「南丹広域機動班」として関係機関と連携して、パトロールを実施します。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府・3府県及び関西広域連合合同原子力防災訓練の実施(8月27日:京丹波町) ・府総合防災訓練の実施(タブレットを活用したドローンによる情報伝達訓練を実施)(9月4日:南丹市) ・原子力災害対応訓練(9月4日:南丹市) ・広域防災活動拠点運用訓練の実施(8月2日、9月4日:京丹波町) ・府水害対応訓練の実施(web会議システム活用)(6月6日) ・府地震災害等対応訓練の実施(3月9日) ・不法投棄等防止旬間管内パトロール(5月24日:管内3市町) ・亀岡庁舎及び園部庁舎に設置したモニタリングポストでの測定観測により放射線監視体制を確保
	② 災害に強い道路、河川等基盤整備を推進します。 平成26年台風11号及び平成27年台風11号等の災害復旧工事の推進 園部川(横田工区):破堤箇所上下流の堤防強化の推進。河川管理用通路の完成(6月末)。 綾部宮島線(脇谷バイパス):道路、橋梁詳細設計、用地調査の実施(㉔~㉓)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・園部川(横田工区):破堤箇所下流に河川管理用通路完成(6月末) ・綾部宮島線:詳細設計の推進、用地調査着手【再掲】
	③ 道路、河川等のインフラについて、アセット・マネジメントの手法による効率的、効果的な管理を推進します。 ＜京都丹波の道・長寿プランに基づき、橋梁 93橋(全体487橋)、舗装 8km、トンネル(本体)3箇所(全体12箇所)の点検を実施＞	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・舗 装: 8km実施(100%) ・橋 梁: 129橋実施(139%) ・トンネル: 5箇所実施(167%)
	④ 府民サービス向上のため、職員の資質を高める取組を実施します。 職員の技術力の向上、各種技術資格の取得を支援	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の技術向上:6月16日に技術者会議実施。OJTを意識した業務を実施。
	⑤ 家畜保健衛生所と連携し、有事の際の体制の強化を図ります。 ＜南丹管内における口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの各マニュアルの確認、点検を通じて、発生時の警察、市町、団体、府連携による円滑な防疫体制を整備＞ ＜全チーム員(5組織15名)の参加と畜産農場をフィールドとした実地防疫演習による初動体制の整備及び保健所との連携による作業者の感染防止を目的とした実践型研修を徹底＞ ＜口蹄疫発生に備え特に規模の大きい牛飼育農家についてモデル的に埋却予定農場の事前調査計画 3農場(28年度新規)＞	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所、家保と連携し、スターターチーム全員参加の研修会開催(6月2日)、口蹄疫防疫研修会開催(8月31日)、高病原性鳥インフルエンザ防疫研修(11月24日)、スターターチーム実地訓練(12月15日) ・埋却予定農場の埋却場所の測量・図面作成が完了した 3農場(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
6	地域協働団体等との協働による地域づくりを推進します。		
達成手段 (数値目標)	① 森の京都関連イベントに合わせたNPO等地域団体による地域振興事例発表会等を開催し、府民参画促進と活動支援を行います。 <地域力再生交付金等を活用したプラットフォーム数 25件(27年度実績 18件)>	◎	・プラットフォーム数 34件(136%)
	② 地域活動団体や企業等と協働した、次世代の育成を推進します。 <子どものための文化体験の数 30件(27年度実績 25件)> <子どもの社会体験事業数 23件(27年度実績 17件)>	○	・子どものための文化体験の数 28件(93%) ・子どもの社会体験事業数 25件(109%)
	③ 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等と連携事業に取り組み、世代間交流を推進するとともに、人材育成を図ります。 <幼小中高大連携の取組件数 10件(27年度実績 12件)>	◎	・幼小中高大連携の取組件数 15件 (150%)
7	京都丹波への移住・定住を進めます。		
達成手段 (数値目標)	① 京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例に基づき、市町が行う移住促進特定区域の選定や空き家の活用を支援するとともに、「ホンマに近い」京都丹波のいなか暮らしの情報発信を強化し、企業の雇用活動と連携させた農村地域への移住定住を促進します。 <京都移住コンシェルジュや市町の定住窓口等を通じた新規定住者の受入れ 40人増(27年度実績 23人)> <空き家の活用等を通じた新規就農者の農山村への定住促進 5人(28年度新規)> <多様なライフスタイルを実現できる京都丹波のいなか暮らしを見学する体感ツアーの実施 都市からの参加 30人(27年度実績 28人)> <「ホンマに近い」京都丹波をアピールし都市部でセミナー・相談会を実施 3回(27年度実績 3回)> <里の公共員を配置し地域再生活動に取り組む地区数 4地区(累計)(27年度実績 3地区(累計))>	◎	・新規定住者58人(145%) ・新規就農者の定住促進 5人(100%) ・空家活用19人 ・現地体感ツアー6回 52人(173%) ・都市部セミナー・相談会5回 103人(167%) ・公共員配置地区5地区(調整中2地区)(125%)
	② 企業雇用と連携させた企業セミナーや京都丹波企業ツアーなどの取組で、移住・定住促進に必要な雇用の確保を進めます。 <京都丹波就職ツアー 1回(28年度新規)> ・市町連携による新たな「移住・定住連絡会議(毎月開催)」を設置し、京都移住コンシェルジュや京都ジョブパーク等と連携して、管内全域での移住・定住のワンストップの支援体制を構築 ・市町やハローワーク、子育て団体、教育局等とオール南丹で移住を進める協議会を設置 ・「南丹地域里力再生支援会議」の機能を強化し、移住の促進や課題解決に取り組みます	○	・転職・UIターン希望者を対象とした地元企業とのマッチングツアーを2回実施(200%) ・移住定住連絡会議4月設置(毎月開催) ・オール南丹で移住を推進する「京都丹波移住・定住促進協議会」11月1日設置 ・「南丹地域里力再生支援会議メンバー」に加え、新たに、業界団体、NPO等に呼びかけ、地域へ出向く等地域再生や空家対策等の課題について連携支援を実施
	③ 都市住民が農村での維持保全活動(さとボラ)や農作業(おいしい食の応援隊)の応援に参加する機会を増やし、また、農山村体験を楽しめる農家民宿の開業支援を行うとともに、移住希望者等の農家民宿での農村暮らし体験を支援するなど、都市農村交流を推進します。 <ワンストップ相談窓口を活用した農家民宿の開業支援 農家民宿開業 5軒(累計23軒)(27年度実績 6件(累計18軒))> <さとボラ・おいしい食の応援隊など農村ボランティアへの登録拡大 新規20人(27年度実績 32人)> <農山村移住生活を体験メニューとして設定する農家民宿 10軒(28年度新規)>	◎	・農林漁家民宿開業支援7軒(合同調査実施3軒、事前相談4軒)(140%) ・ボランティア新規登録28人(140%) ・15軒(移住生活を体験メニューと設定し、移住希望者の現地訪問時に宿泊受入可能な農家民宿)(150%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
8	地域に伝わる自然・文化をいかした地域づくりを進めます。		
達成手段 (数値目標)	① 京都丹波の森など豊かな自然とのつながりをもちながら、古くから京の台所を支えてきた地域の食文化を活かした農山村地域の活性化・地域づくりを推進します。 ・森とのつながりをテーマにした地域資源再発見ワーキングショップ ＜森とのつながりをテーマにした地域資源再発見ワーキングショップ 京都さば寿司サミットの開催 1回(28年度新規)＞	◎	・京都さば寿司サミット:11月13日(日)旧鶴ヶ岡小学校で開催 参加者 1,000人 (100%)
	② 農村地域の若い担い手の育成を目指し、農芸高校生の土地改良技術のスキルアップを図るため、農芸高校と連携して、農業土木コースの生徒に「ほんまもん」の土地改良技術を伝承します。 ＜農芸高校と連携し、中山間ふるさと保全基金・教育パートナーシップ活動(農業農村アプレンティスシッププログラム)を実施 2回(28年度新規)＞	◎	・農業農村アプレンティスシッププログラム H28.6.9第1回(生徒10名参加) H28.10.14第2回(生徒20名参加) H28.10.15第3回実施(生徒10名参加) H29.3.21第4回実施(生徒10名参加) (200%)
	③ 捕獲と防除の両面から農作物被害を軽減する野生鳥獣被害対策を展開します。 ・被害軽減のため、集落の餌場をなくし、防護柵の適正な設置、維持管理を住民自ら実施するモデル集落を設定し、重点的に指導 ＜被害軽減モデル集落数 3集落(28年度新規)＞ ・府県、市町境地域における広域有害捕獲の実施 ＜広域有害捕獲 18回＞ ・狩猟の違反行為をなくし、安全で適正な有害鳥獣捕獲の担い手を育成するため、狩猟の注意点やルールを徹底する「マナー向上講習会」を実施 ＜猟友会と共催して、「マナー向上講習会」を開催 1回(28年度新規)＞ ・マツタケ林における発生環境整備やシカ被害防止調査・実証事業を実施 ＜マツタケ林シカ被害防止調査・実証事業実施 2箇所(28年度新規)＞ ・総合的な対策により農作物被害を減少 ＜被害額 前年度比 90%＞	◎ ◎	・モデル集落選定 南丹市園部町口人、京丹波町大簾、亀岡市西別院町 3集落 (モデル集落での研修会、被害調査実施)(100%) ・広域有害捕獲 19回実施117頭捕獲 (今後1回実施)(106%) ・「マナー向上講習会」4回実施(400%) (京丹波町・4月3回)(南丹市2月) ・マツタケ林シカ被害防止調査・実証事業実施中(ジグザグテープ張り等実施) (場所:南丹市八木町北広瀬・水所) ・被害額 前年比 70.7% (107%)
	④ 地球温暖化防止等の意識醸成を図ります。 ・次代を担う小学生に対して地球温暖化防止等の周知を継続すべく「未来っ子温暖化防止授業～学校で家庭でCO2削減～」を実施 (メガソーラー発電等の京都丹波地域の取組も説明するとともに、関係団体と協働等)し、身近な温暖化防止対策を推進します。 ＜㉗～㉙の4年間で管内小学校を一巡＞	◎	全校30校のうち、㉗は9校(㉘は8校)実施済み。(100%)
	⑤ 食品関連業者で生ずる廃棄物の適正処理を確保します。 ・食品関連業者への立入検査 ＜立入件数 11社＞	◎	大規模食品製造業者5社及び食品関連産廃業者6社全て実施済み。(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
9 特色ある高等教育機関等をいかした人づくりを推進します。			
達成手段 (数値目標)	① 京都丹波には、優秀な企業や高等教育機関が集積し、又、意欲ある若手農業経営者が多数いることから、平成27年5月に京都学園大学、京都府農林水産技術センター及び京都府南丹広域振興局の三者で締結した「地域人材の育成に関する連携協定」等を活用し、農起業塾を開催するなど、消費者や市場に近い京都丹波の強みをいかした経営力のある若い農業者や畜産後継者を育成します。 ＜京都学園大学など地元の高等教育機関と連携し、農作物等の販路拡大に繋がる市場調査などの取組を実施 2事例(28年度新規)＞ ＜畜産経営継承塾の開催 技術改善に取り組んだ畜産後継者等 2人(27年度実績 2人)＞	◎	・京都学園大学などとの連携した取組 2事例(100%) 「九条ねぎを使った加工品開発」(京都学園大学) 「飼料にこだわった豚肉の販路拡大戦略」(京都産業大学) ・畜産経営継承塾(養豚全5回中5回:5月17日、7月7日、9月21日、11月2日、1月30日)、(肉用牛全3回中2回:7月14日、2月9日)開催 畜産技術改善に取り組んだ畜産後継者(2名:養豚)(100%)
	② 地域活動団体や企業等と協働した、次世代の育成を推進します。【再掲】 ＜子どものための文化体験の数 30件(27年度実績 25件)＞ ＜子どもの社会体験事業数 23件(27年度実績 17件)＞	○	・子どものための文化体験の数 28件(93%) ・子どもの社会体験事業数 25件(109%)
	③ 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等と連携事業に取り組む、世代間交流を推進するとともに、人材育成を図ります。【再掲】 ＜幼小中高大連携の取組件数 10件(27年度実績 12件)＞	◎	・幼小中高大連携の取組件数 15件 (150%)
10 地域ぐるみで支え合う京都丹波づくりを推進します。			
達成手段 (数値目標)	① 【ネットワークの強化】 医療、保健、福祉、介護における多職種連携の充実を図るため、市町、医師会及び医療機関等関係機関と協働し連携システムや人材育成支援の強化を促進します。 ・病院連絡会議やなんたん在宅医療連携研究会等による多職種意見交換会の実施 ＜参加機関数 延べ150機関、延べ参加者300人(27年度実績 153機関、309人)＞	◎	のべ178機関325人(119%、108%) 南丹在宅医療連携研究会(6/11 10/13/4) 南丹圏域医療構想調整会議(9/2 11/28) 南丹災害医療連携協議会(12/20)
	② 【認知症対策】 認知症になっても地域で住み続けることができる社会の実現を目指して、地域住民及び市町等と連携した啓発を図ります。 ・地域における認知症の理解を促進するため「京都丹波オレンジロードつなげ隊」による啓発活動を地域単位に拡大 ・認知症施策の推進を図るため認知症疾患医療センター(公立南丹病院)と連携して市町の認知症初期集中支援チームの立ち上げ ・認知症行方不明高齢者対策等多様化する高齢者等対策のため所轄警察、消防及び市町等との連携ネットワークの促進 警察(亀岡署・南丹署)・消防(中部広域消防組合)・市町・京都府(保健所等)等との連携調整会議の創設	◎	オレンジロードつなげ隊地域啓発活動 7/15 ヘルスケアローソンオープニング(日吉) 9/10 アルツハイマーデー啓発(アミティ・アルブラ) 10/15わちふれあいまつり 10/30京丹波町社協福祉まつり 等計15イベント 京丹波町ケーブルテレビ認知症啓発番組企画制作 認知症初期集中支援チームの立ち上げ支援 市町村担当者連絡会議(7/8 7/28 10/27) 亀岡市認知症初期集中支援チーム検討部会 南丹保健所圏域認知症等要支援高齢者連絡会:1/27開催 参加機関:警察(亀岡署・南丹署)・消防・市町・保健所

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	③ 【高齢者の介護予防事業の推進】 ・平成29年4月完全移行のため地域ニーズを踏まえた新しい地域支援事業実施に向け市町の高齢者等介護予防事業等の支援を進めます。 ＜京都式高齢者介護予防プロジェクト事業の実施 市民サポーター養成支援 150人、活動地域 10地区(28年度新規)＞ ＜なんたん元気づくり体操サポーター事業養成交流会 参加者 50人(28年度新規)＞	○	・京都式高齢者介護予防プロジェクト事業の実施 市民サポーター養成:134人(89%) (亀岡市72人 南丹市19人 京丹波町43人) 活動地区15地区(150%) (亀岡市9地区 南丹市6地区 京丹波町各自) ・なんたん元気づくり体操 リーダー事業養成交流会 参加者58人(実人員) (116%) 【リーダー養成研修:8/10(39人) 9/5(32人) 交流会2/23(42人)】
	④ 【がん・生活習慣病予防】 きょうと未病改善センター等と連携して「健康・長寿ナンバーワン」を目指し、がん・生活習慣病予防など、トータルで健康づくりを進める「南丹式健康長寿プログラム」を全市町で展開します。 ・「運動の習慣化」の活動を推進 ＜ロコモ予防の体操やウォーキングを推進する地域リーダー住民数 100人(27年度実績 62人)＞ ・「食生活の改善」の活動を推進 ＜野菜レシピの活用団体数 15団体 (27年度実績 11団体)＞ ・「喫煙防止」の活動を推進 ＜防煙(がん予防)授業の支援と従事者養成講座の実施 防煙授業未実施校 3校、講座参加者数 20人 (27年実績 17校)＞ ・「歯の健康」の活動を推進 ＜歯周病予防のための禁煙支援をする歯科医療機関数 28機関 (27年度実績 20機関)＞	○	・運動を推進する地域リーダー数 115人(115%) 【運動普及部会運動イベント:51人 出前講座:64人】 ・野菜レシピの活用団体 16団体(107%) ・防煙授業 未実施校の内7校で実施(小学校5校・中学校2校) 講習会 8/4(33人) (233%、165%) ・禁煙支援をした歯科医療機関 28機関 (認証制度 9機関)(100%)
	⑤ 【青・壮年期の食を通じた健康づくり】 青・壮年期を通じた健康づくりを推進します。 ・管内に立地する企業や大学の食堂と連携し、健康情報の提供や食環境を整備 ＜「けんこう食堂化」事業の展開 新規2箇所(27年度実績 7件)＞	◎	・「けんこう食堂化事業」 2カ所(企業1カ所、大学1カ所)(100%)
	⑥ 【在宅難病患者の支援】 難病在宅難病患者が安心して療養生活が送れるよう、在宅療養者ケアを多職種が連携してチーム支援を進めます。 ・重症難病者を支援している関係者が集まり支援体制を整備 ＜支援グループチーム会議の開催 12回(28年度新規)＞	◎	・支援グループチーム会議の開催:15回開催(125%)
	⑦ 【発達障害等への支援】 発達障害の方への乳幼児期から生涯にわたる切れ目のない支援体制を整えます。 ・発達障害に関わるネットワークを再構築して、関係機関が連携をしながら切れ目のない支援体制を構築 ＜参画関係機関 15機関(28年度新規)＞ ・ネットワークの関係機関が連携し、研修会や講演会などを通じて発達障害への理解を深める ＜研修会等の参加者 延べ50人(28年度新規)＞ ・発達障害児の保護者支援や早期支援を推進するために、27年度のモデル的な取組を踏まえ、市町が主体的に実践できるように専門的にバックアップをします。 ＜市町での事業企画及び事業評価への参画、事業実践への支援 5回＞	◎	・南丹圏域障害者総合支援ネットワーク(ほっとネット)発達障害部会を本年6月に設置(参画関係機関19機関)(127%) 第1回部会開催(9月6日)、第2回部会開催(1月25日) ・研修会の参加者 のべ104人【発達障害支援従事者研修会第1回8/12(47人)、第2回11/24(33人)第3回1/24(24人)】(208%) ・市町事業への支援・亀岡市SST 5回(8/17、8/31、9/5、10/5、11/2実施) 亀岡市と協働で保護者向けペアレントトレーニング開催 6回シリーズ(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)	
⑧	<p>【障害のある人の自立支援】</p> <p>・なんたん障害者就業・生活支援センターを始め、ハローワーク、京都ジョブパーク等と連携した障害者の新規就労を創出します。 <新規一般就労 30人(27年度実績 新規27人)></p> <p>・京都丹波オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」の販売促進のため、販売技術研修の開催やイベントへの出店による販売等を行い、障害者の平均賃金の向上に向けた取組を進めます。 <平均工賃:月額19,500円(27年度実績 16,864円)></p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の新規就労支援の取組を実施(新規一般就労) 33名(110%) ・「ほっとはあと製品」販売促進等研修を各事業所職員を対象に開催(8/10:参加者11名 8/30:参加者27名 9/15:参加者35名) ・「ぬくもり京都丹波フェスタ2016」をイオンモール京都桂川で開催(9月24日)(参加事業所)15事業所(事業所職員)延べ107名(参加利用者)20名(商品売上額)650,010円(購入者数)809家族 ・28年度の平均工賃 17,800円 	
⑨	<p>【福祉人材の確保対策及び職場定着の促進】</p> <p>福祉人材の確保対策及び職場定着の促進を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉事業所の人材を確保するため、採用力を高める講習を開催するなどして福祉職場就職フェアを開催 ・求人法人に対する支援:延べ35法人(28年度新規)> ・福祉人材の職場定着のため、地域密着型での研修会や若手・新規職員の交流会を開催 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・採用力向上セミナーの開催(7月5日 17事業所)及び福祉職場就職フェア京都丹波を開催(8月6日 延べ42法人)(120%) ・職場定着のため研修会を開催(12月14日 管理者向け利用者の家族対応研修 1月26日 支援者向け感情コントロール研修) ・新規採用職員交流会を開催(11月9日、12月9日) 	
⑩	<p>【生活困窮者への支援】</p> <p>生活困窮者へのアウトリーチ型の相談・支援の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京丹波町が行う心配ごと相談に相談員が出向き、積極的に相談を受け付 ・心配ごと相談への相談員の派遣 6回(28年度新規)> ・生活困窮者の課題に寄り添い、きめ細かな相談・支援を実施 ・相談員による相談:延べ150回(28年度新規)> 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごと相談への相談員の派遣(6回 5/30、6/6、7/25、11/7、11/28、12/5)(100%) ・相談員による相談(172回)(115%) 	
11	<p>「子育て王国 京都丹波」を目指します。</p>			
達成手段(数値目標)	①	<p>子育て支援団体が中心となり、地域全体で子育て家庭を応援する仕組み(「子育てわくわくご近所応援団」)をモデル的に実施します。 <モデル実施箇所数 3箇所(28年度新規)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援団体 4箇所(亀岡市:2箇所、南丹市:1箇所、京丹波町:1箇所)を選定し、事業実施を支援(133%)
	②	<p>子育て支援団体のリーダーを対象とした講座(子育てリーダー養成塾)を開催し管内の子育て支援ネットワークの構築を図ります。 <講座参加者数:延べ60人(28年度新規)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・南丹管内の子育て支援団体等で中心的に活動する方を対象にステップアップ講座を5回開催 講座参加者 延べ111人(185%)(11/10:27人、12/6:19人、12/12:21人、1/18:22人、1/31:22名)
	③	<p>京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用事例に基づき、市町が行う移住促進特定区域の選定や空き家の活用を支援するとともに、「ホンマに近い」京都丹波のいなか暮らしの情報発信を強化し、企業の雇用活動と連携させた農村地域への移住定住を促進します。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都移住コンシェルジュや市町の定住窓口等を通じた新規定住者の受入れ 40人増(27年度実績 23人)> ・空き家の活用等を通じた新規就農者の農山村への定住促進 5人(28年度新規)> ・多様なライフスタイルを実現できる京都丹波のいなか暮らしを見学する体感ツアーの実施 都市からの参加 30人(27年度実績 28人)> ・「ホンマに近い」京都丹波をアピールし都市部でセミナー・相談会を実施 3回(27年度実績 3回)> ・里の公共員を配置し地域再生活動に取り組む地区数 4地区(累計)> 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・新規定住者58人(145%) ・新規就農者の定住促進 5人(100%) ・空家活用19人 ・現地体感ツアー6回 52人(173%) ・都市部セミナー・相談会5回 103人(167%) ・公共員配置地区5地区(調整中2地区)(125%)
	④	<p>企業雇用と連携させた企業セミナーや京都丹波企業ツアーなどの取組で、移住・定住促進に必要な雇用の確保を進めます。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波就職ツアー 1回(28年度新規)> ・市町連携による新たな「移住・定住連絡会議(毎月開催)を設置し、京都移住コンシェルジュや京都ジョブパーク等と連携して、管内全域での移住・定住のワンストップの支援体制を構築 ・市町やハローワーク、子育て団体、教育局等とオール南丹で移住を進める協議会を設置 ・「南丹地域里力再生支援会議」の機能を強化し、移住の促進や課題解決に取り組みます 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・転職・UIターン希望者を対象とした地元企業とのマッチングツアーを2回実施(200%) ・移住定住連絡会議4月設置(毎月開催) ・オール南丹で移住を推進する「京都丹波移住・定住促進協議会」11月1日設置 ・「南丹地域里力支援会議メンバー」に加え、新たに、業界団体、NPO等呼びかけ、地域へ出向く等地域再生や空家対策等の課題について連携支援を実施
	⑤	<p>体育協会、市町をはじめとした団体が構成する「京都丹波・まるごとスタジアム化推進協議会」を軸にスポーツ観光を推進し、更なる誘客と地域の活性化を図ります。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町、地元団体と連携し、スポーツと田舎暮らしを体験する男女の出逢いイベント、京都丹波へ『でいと・し・といで』を開催【再掲】 ・参加者数 50人(28年度新規)> 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・3/20『森の京都 春の祭典』にて、豊かな自然の中でスポーツを楽しむ、「森の京都謎解きウォークラリー」「森のキッズジャングル」(移住相談会と同時開催)を開催し、地域内外のファミリー層や若者層にスポーツを通じた地域の魅力アピールを図った。 ・男女の出逢いイベント「でいと・し・といで」未達成 【未達成の要因・理由】 ・全国育樹祭の会場となったスチールの森を主会場に3月4日又は3月11日に開催する方向で進めていたが、急遽3月20日に「森の京都春の祭典」の開催が決まったことから実施が困難となったため。

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
12	ものづくり産業の拠点づくり、次代のものづくり産業を担う人づくりを推進します。		
達成手段 (数値目標)	① 森の京都博に合わせ、京都新光悦村への誘客・誘致を図ります。【再掲】 ＜新光悦村の工房等と連携し、製品等の展示会を開催 1回＞ 企業訪問及び産業観光ツアーなどの各種イベント等において、新光悦村のPRを実施	◎	・10月8日(土)・9日(日)、新光悦村で、京都新光悦村フェスティバル開催(工芸品の展示等)(100%)
	② 京都丹波地域への企業立地や立地企業の高度化(増設等)を促進し、ものづくり産業の振興、雇用の創出を図ります。 ＜企業立地動向や産業動向を踏まえ、京都丹波地域の実態に即した企業誘致等の取組を進めていくため、本庁、管内市町、商工会・商工会議所等で構成される地域連絡会議の開催 3回(27年度実績 4回)＞ ＜企業立地、事業高度化(増設等)企業数 10件(新規立地3、増設等7)(27年度実績 4件)＞ ＜新規雇用 100人(27年度実績 52人)＞	△	・地域連絡会議 3回(100%) ・工場増設等 5件(50%) ・新規雇用人数 56人(56%) 【未達成の要因・理由】 他にも当該地域に進出を希望する企業からの引き合い・相談があったが、適切な用地の不足などにより進出決定までには至らなかった。 今後も、管内市町と連携し、空き工場用地の情報把握に努めるとともに、将来的な都市計画区域の見直しも含め、事業用地の確保等に努めていく。
	③ 立地企業のスムーズな操業開始・高度化(増設等)に向け、関係機関とワンストップ対応できる体制を強化し、きめ細やかなフォローを実施します。 ＜プロジェクトチーム内連絡会・情報共有 7回(27年度実績 7回)＞	◎	・連絡会・情報共有 7回実施(農業への新規参入、地元産野菜の調達、土木等との調整)(100%)
	④ 中小企業者のニーズに即応するため、ハンズオン支援体制の強化を図ります。 ＜市町、商工会・商工会議所、京都産業21、京都ジョブパーク等との連携強化を図り、チーム力を発揮し、現地現場で顔の見える支援を行うためのネットワーク会議等の開催 4回(27年度実績 6回)＞ ＜中小企業応援隊の活動充実のため、情報共有・スキルアップを目指す地域連絡会議の実施 参加経営支援員数 延べ60人(27年度実績 62人)＞	○	・6月10日、左記の市町、産業支援団体等による新組織「京都丹波産業支援Aチーム」を創設 ・ネットワーク会議の開催 8回(参加経営支援員数55人)(200%、92%)
	⑤ 現地現場において、チーム力を発揮し、中小企業の経営の安定・発展をサポートします。 ＜経営のお役立ち情報をタイムリーに情報提供 メール配信 60回(27年度実績 62回)＞ ＜経営の安定・発展を目指す中小企業へのハンズオン支援の実施 企業訪問 120件(27年度実績 159件)＞ ＜新たな成長ステージを目指す中小企業応援セミナー・施策説明会の開催 4回(27年度実績 4回)＞ ＜経営の安定・発展を目指す中小企業へ助成金・補助金等の活用支援 35件(27年度実績 30件)＞ ＜京都府認証制度等(経営革新承認・元気印中小企業認定・知恵の経営認証等)の認定取得サポート サポート企業数 10社(27年度実績 22社)＞	○	・メール配信 165回(275%) ・ハンズオン支援のための企業訪問 202件(168%) ・セミナー・施策説明会の開催 6回(150%) ・助成金・補助金等活用支援 34件(97%) ・経営革新承認申請のサポート 9社(90%)
	⑥ 各企業の強みを生かした連携、新たな成長ステージを目指す事業展開等につながるよう、企業間の交流を促進し、ネットワーク化を進めます。 ＜情報交換会参加企業数 延べ100社(27年度実績 110社)＞	◎	・参加企業数 108社(108%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>⑦ 京都ジョブパーク、ハローワーク等との連携により、京都丹波地域における雇用や就業を支援します。 <京都丹波企業説明会の開催 1回(28年度新規)> <企業の人材確保と求職者への就業機会提供のため、南丹地域へ就職を考えている若者等を対象に、地域企業による合同就職説明会を開催 1回(28年度新規)> <移住・定住部局及び市町と連携し、東京圏・大阪圏等からの転職・UIJターン希望者を対象とした地元企業とのマッチングツアーを開催 開催1回(28年度新規)> <管内企業の雇用ニーズの把握 100社(27年度実績 136社)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明会開催 1回(100%) ・合同就職説明会開催 2回(29年1月24日、1月26日)(200%) ・転職・UIJターン希望者を対象とした地元企業とのマッチングツアーを2回実施(200%) ・管内企業の雇用ニーズの把握 123社(123%)
	<p>⑧ 地域一体となった、ものづくり人材の育成を進めていくため、地元のものづくり企業と南丹高校テクニカル工学系列等との連携を推進します。 <京都中部ものづくり教育パートナー企業等との懇談会 1回(27年度実績 1回)> <南丹高校テクニカル工学系列等における人材育成支援(企業見学、企業からの講師派遣等の支援)参加人数 60人(27年度実績 51人)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー企業との懇談会開催 1回(6月24日)(100%) ・南丹高校テクニカル工学系列の人材育成支援72名(120%)
	<p>⑨ 地域の方々のものづくり産業への関心・興味を醸成するための取組を進めます。 <南丹高校、地元企業及び関係機関等と連携したものづくり体験教室・工場見学等の開催 1回(28年度新規)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回南丹キッズパーク(29年3月19日開催) 1回(100%)
	<p>⑩ 地元企業・団体の主導のもと、先端技術を持つ企業や地元行政が連携し、エネルギーの地産地消化や新ビジネス創造による雇用創出、地域経済活性化を目的とした「京都丹波版EMS(エネルギーマネージメントシステム)地方産業創生プロジェクト事業」を展開します。 <プラットフォームミーティング・ワーキングの開催 8件(28年度新規)> (※ワーキング例:「6次産業」、「電気自動車電源化」他) <ビジネスプラン策定 1件(28年度新規)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム会議を5回開催、4ワーキングを立ち上げ、17回WG会議を開催(275%) ・ビジネスプラン策定(100%)
13	元気で魅力ある商店街・個店づくりを応援します。		
達成手段 (数値目標)	<p>① それぞれの商店街・個店のニーズ把握に努め、支援施策の活用支援等を通じ、賑わいと交流による活性化を支援します。 <商店街ナビの作成> <地域の特色を活かした商店街づくりのための施策活用支援 5件(27年度実績 7件)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街ナビ作成済(100%) ・地域の特色を活かした商店街づくりのための施策活用 支援 12件(240%)
	<p>② 京都丹波の知名度向上や地域の特産品・名品などの販路拡大等のための物産展等への参画等を支援します。 <物産展等の開催支援 1回(28年度新規)></p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・9月22日(祝)「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展への出店を支援 ・2月18・19日、「京都丹波フェア」への出店を支援(女子ちーびず、食と木工作品とのコラボ商品を出店) (200%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
14	農商工連携を軸にした年商1億円を目指す経営体の育成を目指します。		
達成手段 (数値目標)	①		<ul style="list-style-type: none"> ・資金計画支援 13人全員が計画どおり営農を開始できた。(100%) ・定年帰農支援 16名が4回の講座を受講し、水稲、豆類や機械メンテナンス技術を習得できた。(80%) 【未達成の要因・理由】 広く多数の農業者に周知する必要から、講座の応募人数を想定より大きく設定した結果、募集が定員に達しなかった。 ・資金借受者支援 資金利用計画どおり機械、施設を導入し、普及指導員が定期的に支援し、営農は進んだ。しかし、うち3名は計画どおりの売上が達成できなかった。(50%) 【未達成の要因・理由】 新たな品目の栽培にチャレンジしたところ、想定以上に時間と手間を要し、生産量が伸びなかった。
	②	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・京都学園大学などとの連携した取組 2事例(100%) 「九条ねぎを使った加工品開発」(京都学園大学) 「飼料にこだわった豚肉の販路拡大戦略」(京都産業大学) ・畜産経営継承塾(養豚全5回中5回:5月17日、7月7日、9月21日、11月2日、1月30日)、(肉用牛全3回中2回:7月14日、2月9日)開催 畜産技術改善に取り組んだ畜産後継者(2名:養豚)(100%)
	③	○	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリネット 新たな商品開発件数 2件(累計13件)(67%) 「京都大納言小豆と京都府産小麦を使った京ブランドのパン作り(農)河原林×山一パン、井澤製粉)」 「[幻の京藍]を使った京都ブランド「藍抹茶」の販売展開(ひのまる米工房、大庭農園)」 【未達成の要因・理由】 アグリネット会員を対象としてマッチング活動を展開したが、会員内だけの取組では限界があり、2件の開発にとどまった。今後は会員外も含めた取組を検討する必要がある。 ・1億円を超える農業法人数 新たに1件[南丹市](累計22経営体)(100%) ・法人支援 4法人とも黒字経営となる目標は達成。しかし、1社は枝豆(1ha)が鹿の食害で全滅、もう1社は中期経営計画の策定が枝豆収穫後にずれ込み、販路開拓を次年度送りとするなどの課題は残った。(100%) ・経営展開支援 技術課題を中心に支援し、計画とおり全員達成。(100%) ・応援隊重点対象経営体 亀岡市3、南丹市3、京丹波町4の計10経営体について、計画実行を伴走支援できた。(100%) ・農業女子 亀岡市2、南丹市3、京丹波町4の計9人がネットワークに加入し、12月15日、2月22日に女子会開催(100%) ・チャレンジ事業 亀岡市5、南丹市2、京丹波町2の計9経営体が事業着手し、目標達成のため伴走支援中(90%)
	④	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値畜産物生産及び販路拡大に向けた取組開始(2経営体(養豚、採卵鶏))(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
15	<p>地元の企業との連携強化による新たな特産品の育成や担い手への農地集積、地産地消の推進などで儲かるビジネスを実現します。</p>		
①	<p>特産物は、集落営農組織を中心に黒大豆の機械化を進めるとともに、ブランド京野菜では紫ずきん等の分業化や省力機械化による規模拡大、丹波くりは新規植栽の推進による面積拡大を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒大豆の機械化栽培体系において、栽植密度を変更し、品質収量による品質向上(L級以上の収量増)。 ＜国営ほ場整備等の大区画水田でのL級以上の収量 50kg/10a(27年度実績 32.7kg/10a)＞ ・紫ずきんの分業化・省力機械化による鮮度維持(高糖度)を保持できる作業体系を確立 ＜1.5ha規模の栽培農家の調査を基に1～2haに対応できる経営指標を策定 1事例＞ ・集落営農の法人化による地場産業としての農業振興 ＜集落型営農法人の増加 1法人(累計25法人)(27年度実績 1法人(累計24法人))＞ 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・黒大豆機械化 昨年32.7kg/10aであったが、栽植密度を広げるなど、技術改善を図った結果、40.7kg/10aを達成した。(46%) 【未達成の要因・理由】 豆類の集荷調製施設の空きを待って収穫せざるを得ないが、28年度は天候の影響で小豆や白大豆を含めた収穫全体が遅れたこともあり、調査展示ほ場の収穫が1/14の大雪以降となって収量が大きく低下した。 ・紫ずきん作業体系 2ha規模の経営指標策定済み(100%) ・集落型営農法人の増加 2法人(200%) [南丹市(農)竹井営農組合、(農)ふなえだ]
②	<p>京都丹波産米の特A評価の獲得、酒造好適米の品質向上と生産拡大、京都丹波ブランドの特産物や飼料用米、稲WCSの作付を拡大します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要のある水稻品種への転換や技術情報のきめ細やかな提供を通じ、特A評価の獲得を目指す。 ・府酒造連が要望する酒造好適米の出荷量と一等米比率の実現 ＜祝:反収380kg/10a、一等米比率65%(27年度実績 生産量88t、44%)＞ ＜京の輝き:反収510kg/10a、一等米比率80%(27年度実績 生産量291t、93%)＞ ・戦略作物(「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くり)の栽培面積の拡大 ＜「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くりの栽培面積 102ha(27年度実績 101ha)＞ ・耕畜連携を図り、飼料用米、稲WCSの作付面積増加による生産基盤強化 ＜飼料用米及び稲WCS作付け拡大による生産基盤強化 96ha(27年度実績 89ha)＞ 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・酒造好適米 関係機関と連携し、研修会、技術情報の発行、巡回指導、技術実証ほを設置する等、技術支援を行った。その結果 (祝)収量358kg/10a、一等米比率39%(94%、60%) (京の輝き)収量518kg/10a、一等米比率84%となり、「祝」で目標収量と品質が達成できなかった。(102%、105%) 今後は対象農家により近い地域担当普及員と連携するなど、技術や情報のきめこまかな伝達を図ることが重要。 ・戦略作物の栽培面積の拡大 103ha (京かんざし)延べ0.7ha (黒大豆エダマメ)30ha (丹波くり)72ha ・飼料用米 50ha、稲WCS 67ha、合計 117ha(122%)
③	<p>丹波くりの産地再生に向け、荒廃農地の再生等くり園地の拡大とこだわり栽培技術講習会等の実施により、商品価値の高い「ブランド産品」の取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜新植 1ha(27年度実績 1ha)＞ ＜園地管理・せん定等技術指導者の育成(講習会等) 2回(27年度実績 2回)＞ 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・くり園地の拡大とこだわり栽培技術講習会の実施 新植により拡大した園地面積(年度末に集計) 講習会 2回(技術者指導育成 植栽講習(H28.11.24)、せん定講習(H29.1.12)) (100%)
④	<p>余剰生産物をいかした地ビール、加工品の生産・販売にチャレンジします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都スタジアム(仮称)での販売を目指し、地ビールの試作品づくりや評価に取り組みむ母体として、生産者、普及センター、企画調整室、JA、学園大学、事業者等で「亀岡地ビール研究会(仮称)」を設立 ＜黒大豆下級品を活用して健康づくり加工品を開発するために大学、企業等から情報交換 1事例(27年度実績 0事例)＞ ・酒造会社との連携により、京都丹波産の酒米を用いた「森の京都」記念商品を商品化 	○	<ul style="list-style-type: none"> 【地ビール】 ・8月30日に「亀岡産麦芽100%ビールづくり勉強会」を開催したところ、現在の契約(JA京都全農→キリンビール)量が未達な状態では動けないことが問題。今後は契約量が達成できるよう栽培技術支援等生産拡大を進めていく。(100%) 【黒大豆下級品】 ・府立大学ACTR(地域貢献型研究)で共同研究。高い機能性が確認できた。 ・宇治川製茶(黒豆茶)に紹介し、商談成立 ・平成29年2月「京都丹波フェア」で「森の京都」記念商品を販売

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	⑤ 新しい地域特産物を使った新商品の開発を支援します。 ＜京都丹波アグリネット等を通じた新商品開発 新たな商品開発件数 3件 累計14件(27年度実績 3件)＞	○	△ ・アグリネット 新たな商品開発件数 2件(累計13件)(67%) 「京都大納言小豆と京都府産小麦を使った京ブランドのパン作り(農)河原林×山一パン、井澤製粉)」 「幻の京藍」を使った京都ブランド「藍抹茶」の販売展開(ひのまる米工房、大庭農園)」 【未達成の要因・理由】 アグリネット会員を対象としてマッチング活動を展開したが、会員内だけの取組では限界があり、2件の開発にとどまった。今後は会員外も含めた取組を検討する必要がある。
	⑥ 京都丹波の特産である五色の豆「小豆(赤)、黒大豆(黒)、紫ずきん(紫)、大豆(黄)、京白丹波(白)」の魅力を再発見し、地産地消を進めます。 ＜プラットフォーム「京都丹波豆ONEの会」と連携し、五色の豆の魅力を多くの人に知ってもらう「京都丹波豆ONEグランプリ2016」を開催＞		◎ ・「京都丹波豆ONEの会」と共催し、「京都丹波豆ONEグランプリ2016」を10月16日の京都丹波・森の京都フェスティバルの中で実施
	⑦ 薬膳やハーブ料理、リキュール等、農業者と商工業者、農業者と医療関係者との地域内連携を推進し、地場食品産業と結び付いた健康食の開発や普及に取り組みます。 ＜試作品1品・ツアー1回(27年度実績 チョロギ甘酒、薬膳料理教室等 4回)＞		◎ ・亀岡市宮前町 試作品1品・ツアー1回(100%)
	⑧ 国営ほ場整備(H27～)地区で中核となる担い手の規模拡大や農地集積を支援するため、京力農場プランの作成を進めます。 ＜国営ほ場整備地区(444ha)内で新たな営農組織づくりを開始 1集落＞		○ ・新たな営農組織づくりの検討を開始 [管我部工区 春日部集落] 「管我部工区全体営農組織設立検討委員会」が29年1月に発足した。
	⑨ 耕作が困難又は放棄された農地について、農地中間管理事業等による貸し借りの促進や再生可能エネルギー施設用地等、農地以外の有効活用を推進します。 ＜管内耕作放棄地解消面積 10ha(27年度実績 21ha)＞ ＜農地中間管理事業による担い手への農地集積 新たな貸付農地面積100ha(累計207ha)＞		△ ・管内耕作放棄地解消面積 年度末に集計のため未定 ・農地中間管理事業による新たな貸付農地面積 47ha(累計254ha)(47%) ○四半期ごとに農地利用推進チームの市町部会を開催(延べ12回) ○農地利用推進チーム市町部会として次の活動を実施 ・農業者等個別訪問 15件 ・重点実施地区の設置 9地区 ・京力農場プランの作成支援 16地区 【未達成の要因・理由】 農地集積を進めるには、地域内の話し合いが必要であり、そのきっかけづくりとなる京力農場プランの作成を推進したが、目標とする農地集積面積までは届かなかった。
	⑩ 府営農業基盤整備事業を計画的に実施します。 ＜農業用河川工作物応急対策事業 上桂川地区 河川協議の実施 1地区(28年度新規)＞ ＜基幹水利施設ストックマネジメント事業 新庄地区 ゲート4門(28年度新規)＞ 農村地域防災減災事業 大石ヶ谷池地区 堤体工完了(28年度新規) ＜経営体育成基盤整備事業 川東地区 事業完了 換地処分 1工区(28年度新規)＞		◎ ・上桂川地区 協議完了・1月申請書提出済 ・新庄地区 発注済み、3月末完了 ・大石ヶ谷池地区 堤体工完了 ・川東地区 換地処分完了 事業完了
⑪ 生産者と消費者が接する機会の増加。また、直売所の効率的な運営をめざし伴走型支援をします。 ＜2市1町の直売所を楽しく巡る直売所ロードマップの作成や直売所クイズラリーの実施による農産物直売所の販売金額の拡大 23億円(27年度実績 21.5億円(推定))＞ ＜「ぐるっと京都丹波ファーマーズマーケット」オリジナルレシピのクックパッドでの発信。100レシピ事例(28年度新規)＞ ＜直売所の品揃え拡大による地産地消の拡大 新たにパイプハウス導入や生産者との契約栽培を行う直売所の数 3箇所(28年度新規)＞ ＜消費者と生産者の意見交流会 1回(27年度実績 1回)＞	○ ・直売所販売金額 22.5億円(98%) ・7月1日から5ヶ月にわたり「京都丹波」イチ推しの食100選』として、レシピサイトに掲載し広く発信する取組を実施。 ＜100レシピを掲載済・閲覧数197,429を獲得。「つくれぽ」104通＞ ・2直売所において大手ホテルとの食材取引契約が成立 ＜米5トン、野菜3.5トン、推定約450万円＞ 1直売所において、大阪府内のマンションとの米の契約取引が開始 ・消費者と生産者の意見交流会については、11月22日メディア試食会、「京都丹波イチ推しの食」を実施。(100%)		

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑫	都市住民が農村での維持保全活動(さとボラ)や農作業(おいしい食の応援隊)の応援に参加する機会を増やし、また、農山村体験を楽しめる農家民宿の開業支援を行うとともに、移住希望者等の農家民宿での農村暮らし体験を支援するなど、都市農村交流を推進します。【再掲】 <ワンストップ相談窓口を活用した農家民宿の開業支援 農家民宿開業 5軒(累計23軒)(27年度実績 6軒(累計18軒))> <さとボラ・おいしい食の応援隊など農村ボランティアへの登録拡大 新規20人(27年度実績 32人)> <農山村移住生活を体験メニューとして設定する農家民宿 10軒(28年度新規)>	◎	・農林漁家民宿開業支援7軒(合同調査実施3軒、事前相談4軒) (140%) ・ボランティア新規登録28人(140%) ・15軒(移住生活を体験メニューと設定し、移住希望者の現地訪問時に宿泊受入可能な農家民宿)(150%)
⑬	「きょうと食いく先生」や「食育のたね交付金プラットフォーム」などによる、自主的な食育活動への取組を推進します。 <新たな食育活動への取組 5地区(28年度新規)>	◎	・新たな食育活動の取組 8地区(亀岡市3、南丹市3、京丹波町2)(160%)
16	障害者等の就労支援、高齢者の生きがいづくり等、社会的弱者の方にも対応した新たな付加価値のある「福祉農業」を創造し、ビジネスとして展開します。		
達成手段 (数値目標)	① 障害者等の就労支援、高齢者の生きがいづくりや農業経営の雇用につながる「福祉農業」を、福祉農業取組事業者、障がい者雇用支援機関、農・園芸福祉団体、京都学園大学、行政(管内農業・福祉担当部局)等による、京都丹波ユニバーサル農業(福祉農業)懇談会と連携して推進します。 <障がい者等の農業参入支援マニュアルの作成 1式>	△	・未達成 【未達成の要因・理由】 障がい者支援のマニュアルについて、農業関係主体での作成は困難であった。29年度は、健康福祉部の農福連携事業を中心に南丹地域の取組を進める。
	② 【障害のある人の自立支援】 ・なんたん障害者就業・生活支援センターを始め、ハローワーク、京都ジョブパーク等と連携した障害者の新規就労を創出します。 【再掲】 <新規一般就労 30人(27年度実績 新規27人)> ・京都丹波オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」の販売促進のため、販売技術研修の開催やイベントへの出店による販売等を行い、障害者の平均賃金の向上に向けた取組を進めます。【再掲】 <平均工賃:月額19,500円(27年度実績 16,864円)>	○	・障害者の新規就労支援の取組を実施(新規一般就労) 33名(110%) ・「ほっとはあと製品」販売促進等研修を各事業所職員を対象に開催(8/10:参加者11名 8/30:参加者27名 9/15:参加者35名) ・「ぬくもり京都丹波フェスタ2016」をイオンモール京都桂川で開催(9月24日)(参加事業所)15事業所(事業所職員)延べ107名(参加利用者)20名(商品売上額)650,010円(購入者数)809家族 ・28年度の平均工賃 17,800円
17	安心・安全な災害に強いまちづくりを推進します。		
①	桂川等の河川改修を推進します。 桂川:工事の推進、高水敷掘削の完了 園部川:工事の推進 田原川改修:用地買収の推進 千々川・雑水川の改修:用地買収、工事の推進 高屋川:工事の推進	○	・桂川:高水敷掘削の完了に向け工事実施中(2月末時点)5月末完了予定 ・園部川:今年度工事を実施中(2月末時点)年度内完了予定 ・田原川改修:用地買収の実施 ・千々川・雑水川の改修:用地買収実施、工事発注に向け入札準備中、年度内契約予定 ・高屋川:今年度工事の推進
②	土砂災害から生命・財産を守るための砂防設備を整備します。 英サ谷川(美山町島):工事推進(法面工事の完成) 篠原西一谷川(京丹波町篠原):用地買収の推進	◎	・英サ谷川(美山町島):法面工事の完成 ・篠原西一谷川(京丹波町篠原):用地買収実施
③	緊急輸送道路ネットワークの整備を推進します。 国道372号(南八田道路):工事の推進(一部供用) 国道423号(法貴バイパス):橋梁設計、用地調査の実施(㉕~㉚) 亀岡園部線(千歳北工区):工事の推進 枚方亀岡線(歌留多~千歳工区):調査、設計の実施 茨木亀岡線(小泉工区):調査の実施 綾部宮島線(脇谷バイパス):道路、橋梁詳細設計、用地調査の実施(㉔~㉑) 園部平屋線(殿田工区):工事の推進(河川側完成)	○	・国道372号:工事の推進、一部供用(2月末時点)5月中旬予定 ・国道423号:橋梁設計実施、用地立会全線完了【再掲】 ・亀岡園部線:工事の推進 ・枚方亀岡線:用地調査・設計実施【再掲】 ・茨木亀岡線:用地調査実施【再掲】 ・綾部宮島線:詳細設計の推進、用地調査未着手【再掲】 ・園部平屋線:工事の推進、河川側拡幅完成(9月28日供用開始)【再掲】
④	バイパスの新設や改良工事により異常気象時の通行規制の緩和・解消を推進します。 舞鶴和知線:法面対策工事の実施(通行規制基準の見直し実施) 国道423号(法貴バイパス):橋梁設計、用地調査の実施(㉕~㉚)	◎	・舞鶴和知線:法面対策工事の推進、通行規制基準緩和実施(2月1日) ・国道423号:橋梁設計実施、用地立会全線完了【再掲】

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	⑤ 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の指定の完了を目指します。 ＜土砂災害警戒区域の指定 3,849箇所(100%) (27年度実績 3,122箇所 81%)＞	△	・土砂災害警戒区域 3,334箇所指定 (全体3,849箇所の87%) 【未達成の理由・理由】 ・亀岡市域・京丹波町域は指定完了。南丹市域は地元調整に時間を要し、指定完了とならず。
	⑥ 大規模地震に備えた木造住宅の耐震化を促進します。 ・耐震診断補助事業及び耐震改修助成事業を2市1町で実施するとともに、制度周知のための広報活動を市町と連携して実施 ・木造住宅の耐震診断、耐震改修の戸数増 ＜耐震改修:20戸(27年度実績 22戸)＞	◎	・耐震診断受付:36戸 ・耐震改修:22戸(2月末)(110%) ・広報活動:9月4日の府総合防災訓練にて木造住宅耐震啓発活動実施、10月28日の亀岡消費者大学での出前講座を実施
	⑦ 南丹管内で開催される「府総合防災訓練」を機と捉え、2市1町と連携して、地域で核となる人材から幅広い府民の方まで多様な階層に応じ、自分の安全は自分で守ることができる防災人を養成、地域防災力の向上を図ります。 ・地域防災の先導役を担う地域防災リーダーを育成するための研修会・ワークショップを開催 ＜ワークショップ開催 100人(28年度新規)＞ ・2市1町、府の新規採用職員を対象に、「災害発生時における公務員の役割」をテーマとした合同研修会を開催 ＜合同研修会開催 1回＞ ・「自分の安全は自分で守る」ための知識等を盛り込んだ防災啓発冊子を作成・全戸配布し、地域防災力を向上 ＜防災啓発冊子全戸配布 5万戸(28年度新規)＞ ・府総合防災訓練や森の京都博イベントと連携し、防災・減災に関して楽しく学べるイベントを開催し、広く防災意識を向上 ＜イベント開催 管内2市1町各1回:合計3回(28年度新規)＞	○	・東日本大震災あの日を忘れないメモリアル講演会・研修会 (H29年2月12日 85人参加) ・マルチハザード情報活用指導員養成研修 (H29年2月4日 40人参加) 計125人参加<125%> ・管内市町新規採用職員等交流研修 (11月30日) 1回開催<100%> ・防災啓発チラシ作成・管内新聞折込 (H29年1月29日) 41,900戸配布<84%> 【未達成の要因・理由】 ・亀岡市社協との共催によるセミナーの周知と兼ねて新聞折込を行ったため、新聞未購読世帯への配布ができなかった。 ・京都丹波キッズスポーツふれあい広場(京丹波町)において起震車体験を実施(7月2日) ・京都府総合防災訓練(南丹市)において起震車体験を実施(9月4日) ・京都丹波・森の京都フェスティバル(亀岡市)において災害食グランプリ等の防災イベントを実施(10月16日) ・森の京都博テイクオフイベント(京丹波町)において 2市1町計4回開催 起震車体験・災害食試食会を実施予定(H29年3月20日) <133%>
	⑧ 要配慮者支援を考慮した避難所開設訓練等に関係機関と連携しながら実施します。 ＜要配慮者向け避難所訓練:1回＞	◎	・京都府総合防災訓練(9月4日実施)において、南丹市等と連携し、福祉避難コーナーを設置した避難所運営訓練を実施(100%)
	⑨ ため池災害などを未然に防止するため、危険ため池の整備を着実に実施するとともに、市町、自治会を通じたため池ハザードマップの作成により地域防災意識を高めるなど減災防災対策を進めます。 ＜危険ため池を順次整備改修 4池(27年度実績 2池)＞ ＜ため池の耐震調査及び改修に向けた調査・設計 4池(27年度実績4池)＞ ＜市町のため池ハザードマップ作成を技術支援 3池(27年度実績 6池)＞	◎	・ため池整備改修 4池(100%) ・ため池耐震調査・調査設計 5池(125%) ・ため池ハザードマップ 3池(亀岡市、京丹波町)(100%)
	⑩ 農業水利施設等の補修を行い、インフラの長寿命化を進めます。 ＜基幹農業用水利施設の補修(農業用河川工作物応急対策事業・上桂川地区)のための河川協議の実施 1地区>【再掲】 ＜末端農業用水利施設の保全・長寿強化のため、水路簡易補修研修 2回(28年度新規)＞	◎	・上桂川地区河川協議 協議完了・1月申請書提出 ・水路簡易補修研修 2回実施
	⑪ 台風18号や台風11号による林地被害の早期復旧を進めます。 地域住民及び森林所有者の合意形成を円滑に進め、林地災害の復旧対策を早急に着手します。 ＜復旧治山:京丹波町安井 1箇所(27年度実績 1箇所)＞ ＜予防治山:亀岡市大井町、南丹市美山町向山、京丹波町上乙見 3箇所(27年度実績 2箇所)＞	◎	・復旧(安井):契約・着手済 ・予防(大井、向山、上乙見):契約・着手済
	⑫ ため池氾濫や山地災害による人的被害を防ぐとともに、地域の防災意識を高めるため、ため池氾濫及び山地災害の緊急性の高い集落のハザードマップを作成します。 ＜市町のため池ハザードマップの作成を技術支援 3池(27年度実績 6池)>【再掲】 ＜山地災害ハザードマップの調査・作成 8地区(27年度実績 8地区)＞	◎	・ため池ハザードマップ 3池(亀岡市、京丹波町) ・山地災害ハザードマップ:8地区調査完了、作成済み

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
18	交流の拠点となる基盤を整備し、多くの人を呼び込みます。		
達成手段 (数値目標)	① 大阪方面との交流拡大のための道路整備を検討します。 枚方亀岡線(歌留多～千歳工区):調査、設計の実施 茨木亀岡線(小泉工区):調査の実施	◎	・枚方亀岡線:用地調査・設計実施【再掲】 ・茨木亀岡線:用地調査実施【再掲】
	② 「保津川かわまちづくり計画」に基づき、にぎわいの拠点整備等の取組を推進します。 にぎわいの拠点(山本浜)の護岸整備:詳細設計の実施	○	・関係機関調整に時間を要し詳細設計着手に至らず。 ・別途、かわまち全体エリアでの統一感のある情報提供施設整備とするため方針策定し、かわまちづくりの推進を図った。
	③ まちづくりと連携した河川整備を推進します。 東所川:八木駅西土地区画整理事業の進捗に合わせた整備の推進 法貴谷川:国営緊急農地再編整備事業の進捗に合わせた整備の推進	◎	・東所川:八木駅西土地区画整理地内にて今年度工事の推進 ・法貴谷川:国営緊急農地再編整備事業の進捗に合わせた工事実施中(2月末時点)年度内完了予定
19	広大で山間地域の多い京都丹波の地域産業や地域活力を支えるため、交通ネットワークを整備します。		
達成手段 (数値目標)	① 京都縦貫自動車道の各インターチェンジへのアクセス道路を整備します。 国道477号(西田大藪道路):用地買収、工事の推進	◎	・国道477号:用地買収実施、工事の推進
	② JR山陰本線の各駅へのアクセス道路を整備します。 園部停車場線:用地買収の推進	◎	・園部停車場線:用地買収実施
	③ 地域振興、地域観光に寄与する道路の整備を推進します。 国道423号(法貴バイパス):橋梁設計、用地調査の実施(25～32) 綾部宮島線(脇谷バイパス):道路、橋梁詳細設計、用地調査の実施(26～34) 国道372号(南八田道路):工事の推進(一部供用) 国道477号(西田大藪道路):用地買収、工事の推進 亀岡園部線(千歳北工区):工事の推進 郷ノ口余部線(宇津根橋):用地買収、工事の推進(26～30) 園部平屋線(殿田工区):工事の推進(河川側完成) 宮前千歳線(鳴滝工区):工事の推進 京都広河原美山線(内久保バイパス):工事の完成(22～28)	○	・国道423号:橋梁設計実施、用地立会全線完了【再掲】 ・綾部宮島線:詳細設計の推進、用地調査未着手【再掲】 ・国道372号:工事の推進、一部供用(2月末時点)5月中旬予定【再掲】 ・国道477号:用地買収実施、工事の推進【再掲】 ・園部園部線:工事の推進【再掲】 ・郷ノ口余部線:用地買収実施、橋梁下部工事(P1橋脚完了、P2,P4橋脚実施)【再掲】 ・園部平屋線:工事の推進、河川側幅完成(9月28日供用開始)【再掲】 ・宮前千歳線:工事の推進 ・京都広河原美山線:バイパス部完成(10月5日供用開始)【再掲】

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
20	府民協働・府民参画による取組を推進し、地域の自主的な取組を支援します。		
達成手段 (数値目標)	① 工事説明会、見学会、ワークショップを開催して、地域住民の意見を取り入れて 道路河川の整備を推進します。 教育局と土木事務所とのコラボ事業 <コラボ事業の実施:3校(27年度実績 3校)>	△	・0校 【未達成の要因・理由】 郷ノ口余部線の宇津根橋工事に亀岡市立川東小学校対象にコラボ事業を計画(1月26日)していたが、インフルエンザ等で学級閉鎖のため中止。
	② 児童等が安全に通学できるよう、通学路の整備を推進します。 通学路等の歩道整備の計画的な推進:王子並河線(亀岡市大井町~河原町)、園部停車場線(南丹市小山東町)、 松山須知線(京丹波町須知)など12箇所を実施し、うち天王亀岡線(亀岡市井手)で完了	○ ◎	・王子並河線、園部停車場線、松山須知線など12箇所での事業の促進。うち天王亀岡線で事業完了。
	③ 「保津川かわまちづくり」を推進します。【再掲】 にぎわい拠点(山本浜)の護岸整備:詳細設計の実施	○	・関係機関調整に時間を要し詳細設計着手に至らず。【再掲】 ・別途、かわまち全体エリアでの統一感のある情報提供施設整備とするため方針策定し、かわまちづくの推進を図った。【再掲】
	④ アユモドキの保全を進めます。 地元及び研究者と連携し、生息環境の保全に向けた調査を実施	◎	・学識経験者等の助言を得て、桂川本川におけるアユモドキの生息環境の保全に向けた調査を実施 ・別途、七谷川や曾我谷川など桂川の支川を含めた河川におけるアユモドキの共生保全を図るための学識経験者等の助言を得る会議を設立
21	京都丹波の地域ブランドを国内外に情報発信します。		
達成手段 (数値目標)	① 京都丹波・写ガール隊により、「森の京都」を重点的なテーマに管内の魅力をフェイスブック等を通じ、国内外へタイムリーな情報発信【再掲】 <森の京都の発信 500件(28年度新規)> <広報大使として活躍 10件(28年度新規)> ・学生誌やNPOの誌面を活用し、京都丹波をアピール <掲載数 10件(28年度新規)>	○	・森の京都の発信(FB投稿、CATV放送)450件(90%) ・広報大使 13件(130%) ・学生誌等掲載 5件(50%) 【未達成の要因・理由】 森の京都のターゲットイヤーであり、管内情報をPRする機会や媒体が例年よりも多かった為、学生誌の新規開拓ができなかった。29年度はPRしたい情報がPRしたい対象者に届くよう、学生誌に限らず効果的な広報手段を検討する。
	② オール京都丹波による国内外からのお客様の受入体制の整備を進めるとともに、メディア、旅行代理店等を対象としたファミトリップなど国内外誘客おもてなし事業を展開することにより、観光入込客数及び観光消費額の増加を目指します。【再掲】 <京都丹波地域への観光入込客数 700万人(27年実績 644万人)> <観光客一人当たりの消費額 2,300円(27年実績 1,817円)> <台湾を始め世界からのお客様をお迎えするため、異文化コミュニケーション等のホスピタリティ向上スキルアップ研修を開催 7回(28年度新規)> ・国内向けおもてなし観光ファミトリップの実施 <新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 3コース(28年度新規)> <中部・東海、首都圏のメディア・旅行会社等へのファミトリップ実施 1回(28年度新規)> ・国外向けおもてなし観光ファミトリップの実施 <新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 3コース(28年度新規)> <台湾・タイ等の旅行会社等へのファミトリップ実施 1回(28年度新規)>	○	・観光入込客数、一人当たりの消費額は年度末に集計し、7月頃に公表予定 ・ホスピタリティ向上スキルアップセミナー 7回実施済(100%) ・新たな観光素材の発掘・モデルコースの策定 国内向け 3コース済、国外向け 3コース済(100%、100%) ・国内向けおもてなし観光ファミトリップ 保津川下り造船所、京すだれ、天鷲絨工場など、 京都丹波ならではの産業施設や、匠職人の工房を めぐる体験型の観光ツアーを開催 (※参加メディア・旅行会社等、5本合計55名参加)(500%) ・国外向けおもてなし観光ファミトリップ 28年9月トラベルマートにて25社と商談実施 28年12月首都圏中京圏のインバウンドランドオペレーターのファミトリップを実施。15名参加(100%)
	③ 若者目線での域内観光資源の発掘と若年層の郷土愛の醸成を図るため、京都丹波観光プランコンテストを開催します。【再掲】 <京都丹波観光プランコンテストの開催 年1回(27年度実績 1回)> <旅行商品化に向けたモニターツアー等の実施 年1回(27年度実績 1回)>	◎	・10月29日(土)、京都丹波観光プランコンテスト(100%) 本選開催 4チーム参加 ・旅行商品化に向けたモニターツアー 29年2月21日(火)(100%) 旅行会社・タクシー会社等 6名参加

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
④	京都縦貫自動車道全線開通による京都舞鶴港からの誘客を促進します。【再掲】 ＜旅行会社への商品造成の提案：2回以上(27年度実績 3回)＞	◎	・旅行会社等への商品造成の提案を実施 3回(150%)
⑤	京都丹波の食の魅力の情報発信を行います。【再掲】 ＜京都丹波地域の食の魅力をSNS、Web等で情報発信 3回(27年度実績 3回)＞ ・森の京都博関連イベント等において、畜産・食肉事業者等の参画により、素材を生かしたレシピの紹介や試食販売などを通じて、「京都丹波」ブランドを積極的にPR・発信 ・ジビエ料理を提供するレストラン等との連携により、「森の京都スペシャルセット(仮称)」等新メニューの開発を支援	◎	・京都丹波地域の食の魅力をSNS、Web等で情報発信 3回(100%) ・亀岡市アグリフェスタ(10月10日)、京丹波「食の祭典」における畜産農家・食肉事業者の参加を誘導し、畜産物を積極的にPR(肉用牛3戸、1事業者、養豚3戸、1事業者、採卵鶏1戸、肉用鶏1事業者) ・美山町等のレストランで、ジビエを使った「森の京都スペシャルメニュー」の提供(メニュー開発4件)

目標達成状況(達成区分)	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	3	15%
概ね達成「○」(達成手段の◎が2/3以上)	15	75%
未達成「△」(達成手段の◎が2/3未満)	2	10%
計(運営目標数)	20	

<p>【小項目の達成区分】</p> <p>「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)</p> <p>「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)</p> <p>「△」…未達成(達成率90%未満)</p>
--